



にししよ)

西小だより

ホームページはこちら→



「強く 正しく 健やかに」 令和4年 7月14日(木) 第6号 校長 都外川 潔

子どもたちの学力定着のために

西大村小では、子どもたち一人一人の学習状況に応じて、いつでも学び直しができるように学習環境の整備を行っています。

この取組は、私の小学校の頃の経験をもとにして始めたものです。私は、小学生のときに算数が苦手で、特にひき算に苦労していました。たとえば、次のような計算です。

4 0 5	この計算は、5から7はひけないので、十の位から10を借りて15-7をします。
- 7	400から10あげたので、十の位は9、百の位は3になります。
3 9 8	私は、なぜ十の位が9になるのか、4年生の頃まで意味がわからずに困っていました。それが、5年生になってようやく意味がわかり、それから、少しずつ算数がおもしろくなったことを思い出します。

このような経験から、「そのときはわからなくても、後で学び直せばわかるようになることがある」と考えています。そのために、学び直しができる環境を整備しています。校長室の前の棚に、算数の全学年の単元ごとの復習プリントを入れています。このプリントには、子どもたちが自力で解決するための手助けとして、解き方のヒント等ものせています。このプリントはいつでも自由にお取りください。また、本校のホームページにも掲載していますので、必要に応じてご利用ください。

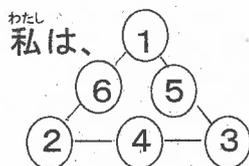
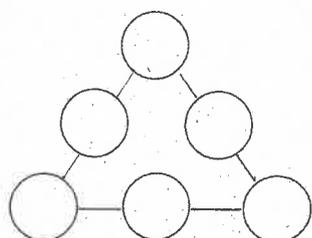
取り組んだプリントは棚の近くの箱に入れてもらったら、私がかえりつけて返しています。

ただ、子どもたちの中には、「自分がどこがわからないのかわからない」と困っている子いるのではないかと思います。そこで、2年生以上を対象に、「前学年の確かめテスト」を行いました。

採点した結果、前学年での苦手な単元がわかりましたので、一人一人のクリアホルダーに、その子が苦手としている単元の復習プリントを入れて渡しています。まずは、このプリントに取り組んで、力と自信をつけてほしいと願っています。

また、確かめテストで苦手な単元がなかった児童には、発展的な問題プリントを渡しています。例えば、2年生と4年生には次のような問題を渡しました。

【問題】下の三角の円の中に、1から6までの数を全部入れて、どの3本の線の上の数も、同じ数になるようにしましょう。



のように、それぞれ「たして9」になることを想定していたのですが、子どもたちは、「たして10」、「たして11」、「たして12」になるやり方を発見していて、「なるほど！」と感心させられました。